

tamtam

2022.09
VOL.18P1 [特集]
小学校統合を機に考える、地域のこれからP2 [特集] 小学校と地域との関わり
他人事ではない、統合の影響とこれからP3 鳥の自治協さん「吉見地区自治振興会」
丹波市民、学びの窓「クラウドファンディング」P4 整ぐ!市民活動「市民後見たんば」
活動事業者紹介「mamimumemo BOOK BOOK」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

小学校統合を機に考える、
地域のこれから



鴨庄小学校（写真上）と前山小学校（写真下）

市島地域市立小学校統合準備委員会において、域内小学校の統合計画が決まりました。2023年4月に吉見小学校と鴨庄小学校が、2024年4月に竹田小学校と前山小学校がそれぞれ統合となります。

主な理由は児童数の減少によるものですが、何もこれは一地域に限った話ではありません。市内ではほとんどの地域で人口の減少が続いており、今後もこの流れは続いている見込みです。特に若年層で顕著で、地域全体で向き合っていかなければならぬ問題となっています。

また、統合自体は決まったものの、統合に向けた今後より具体的な調整や、統合後の児童のサポート、今後も続けていくさらなる統合に向けての協議等、課題も多くあります。一方、既に小学校の統合を終えた青垣地域に目を向けてみると、統合が当事者である児童たちだけではなく、その地域の住民生活へ与える影響についても分かってきました。

今回は丹波市内における小学校の統合を特集し、その課題と今後、そして地域住民としての関わり方について考えてきます。



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

SPECIAL FEATURE

Topics 01 小学校と地域との関わり

統合により閉校となるのは、鴨庄小学校・前山小学校です。鴨庄小学校ではすでに複式学級（複数の学年を1つにした学級）が存在し、前山小学校でも数年後には複式学級とせざるをえない学年が発生することから、児童の学習環境のことを考えれば統合はやむなしとの声が聞かれました。

では、統合による課題は何でしょうか。統合により、これまで徒歩通学であった児童の大多数はスクールバスでの通学になります。それに伴うハード・運用面での整備はもちろんですが、それ以上に「子どもたちにとって地域との心の距離が離れてしまうのではないか。」という心配の声もあがっています。

このため今回統合する小学校区では、自治会や地域住民の協力のもと、これまで以上に地域学習に力を入れてきました。鴨庄地区では、住民のお宅へアジサイ観察に出掛けたり、地域のシンボル「神池」の誕生を描いた紙芝居を鑑賞したりと

いった学習に取り組んでいます。またサマースクールでは、住民と一緒に秋祭りの屋台の企画や神輿作りを行いました。地域の自然や文化と触れ合う機会を設け、地域への興味や愛着を持つてもらうきっかけとすることが狙いです。



サマースクールは地域の住民と児童が一緒になって学び合う場

SPECIAL FEATURE

Topics 02 他人事ではない、統合の影響とこれから

すでに青垣地域では 2017 年に 4 つの小学校が統合し、青垣小学校が誕生しています。

青垣小学校の誕生は丹波市発足後初めての小学校統合で、市内の先行事例となっています。前述の地域学習の取り組みも、青垣地域での取り組みを参考に行われているものです。しかし統合から 5 年を経て、当初は想定していなかった新たな課題も浮き彫りになってきました。

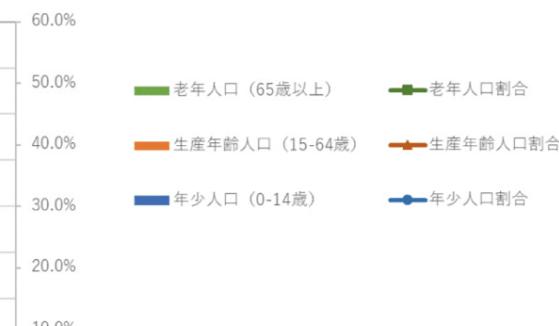
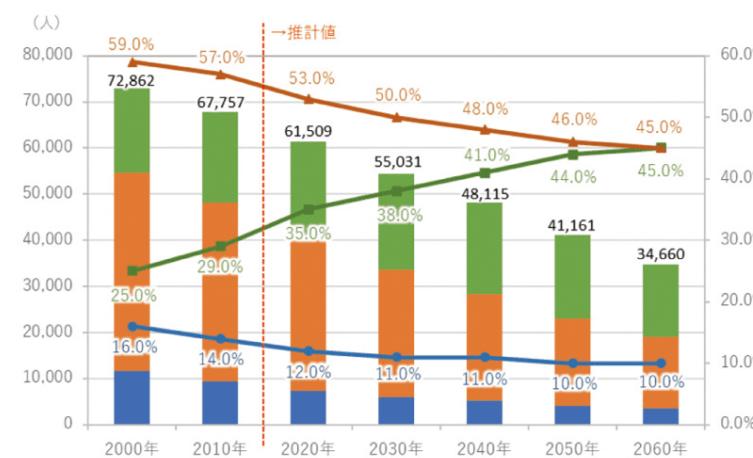
昨年、市の教育委員会が行った統合後の影響を調査するヒアリングでは、保護者や学校関係者からはおおむね前向きな回答が得られた一方、地域住民からは「地域としてはコミュニティの場が 1 つ少なくなった。」「地域行事への参加者が少なくなった。」といった、地域の関係の希薄化を指摘する声が聞かれました。この『地域コミュニティの在り方』に対する声は、

これまで見えていなかった、もしくは直視されていなかった地域課題が、小学校の統合という直視せざるをえない事象によって顕在化したものではないでしょうか。

丹波市の人口は約 62,000 人（2020 年国勢調査）ですが、40 年後の 2060 年には 35,000 人を下回ると推計されています。小学校の統合は、今後も続いていく人口減少社会が抱えるたくさんの課題の、ほんの一部分に過ぎません。これを機に、学校関係者だけに止まらず、企業、地域の自治会、市民団体等、地域に関わりのある皆さんも、これから地域コミュニティの在り方について考えていく時期なのではないでしょうか。

私たち市民活動支援センターも、皆さんが地域への関わり方について学び、考える場を作っています。これからの地域コミュニティの在り方について、一緒に考えていきましょう。

図：市内人口と世代別割合の推移



出典：2010 年までは国勢調査、2020 年以降は内閣府「人口動向分析・将来人口推計ワークシート」より

隣りの 自治 さん 協の

TONARI no
JICHIKYO san

吉見地区自治振興会

各自治会が中心となる地域づくり

吉見地区自治振興会（以下、振興会）は、市島地域の吉見小学校区にあり、人口約2,000人、約830世帯、6自治会で構成され、JR福知山線の市島駅や市島支所、商業施設など、中核的施設が集まる地域に位置します。また7世紀後半の遺跡である三ツ塚廃寺の史跡公園や竹田川での「市島川裾祭・堤防祭」など歴史と文化が息づき、自然の豊かな地域です。

吉見地区では、各自治会の取り組みを大切にしながら、振興会が様々な活動をリードし連携・協力しています。取り組みの1つである男女共同参画の推進では、自治会の3役をはじめ、組長、各委員への女性の登用など女性参画を進めています。ある自治会の男女共同参画啓発のフォーラムでは、一から企画を考え、自治会役職を経験された女性を招いてお話をもらうなど、自分たちの手でつくる学びの機会は、住民の自発的な活動につながっています。

みんなで支えあい みんなでつくる

吉見地区では「みんなで支えあい みんなでつくる 住みよいみんなの“よしみ”」を地域づくりの理念としています。振興会の拠点である友愛センターでは、夏休みに「吉見っ子ゆうあい塾」が開かれ、子どもたちの学びを地域の大人たちが支援しています。また6月には「市島町三ツ塚花しょうぶまつり」が史跡公園で開催され、市島町内の各自治振興会や各種団体、吉見地区的各自治会が協働して実施しました。住民参加型イベントとして、みんなでつくる“よしみ”を実践しています。

その他にも振興会では、みんなでつくる広報紙「よしみの郷」があります。各自治会が持ち回りで記事を担当し、里山を守る取り組みや歴史継承の活動、若い世代による地域活性の活動など各自治会の活動を通して吉見地区の魅力を発信しています。振興会では、地域住民がお互いに助け合い、みんなで力を出し合って、誰もが住みやすい、みんなの“よしみ”を目指して、これからも自治会と協働して地域づくりに取り組んでいきます。



平成たんば塾を引き継ぐ「吉見っ子ゆうあい塾」
地域住民による催しも楽しめる
「市島町三ツ塚花しょうぶまつり」

丹波市民、学びの窓

クラウドファンディングのメリットとリスク

最近、地域の活動やイベント、お店の資金調達の1つとして、クラウドファンディングが行われているのを見かけたことがあるのではないでしょうか。クラウドファンディングとは、「群衆(crowd)と資金調達(funding)を組み合わせた造語で、インターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募るしくみ」*です。特徴は、「新しいモノやサービスを作りたい」、「社会課題を解決するためのプロジェクトを始めたい」といったアイデアや想いを持つ人が誰でも“起案者”として発信でき、それに共感

し「新しいモノやサービスを試してみたい」「応援したい」と思った人は誰でも“支援者”として支援できるところです。その気軽さと拡散性の高さから、魅力的な資金調達の仕組みとして注目されています。

クラウドファンディングを成功させるためには、始める前にそれ以外に資金を集めの方法はないか、成立させるためにはどれくらいの人から支援を見込めそうか、支援者に対して返礼品の準備や丁寧な報告ができる体制にあるかといったことを事前に調べて、準備しておくことが重要です。

*READYFOR HPより引用

6つの視点

【メリット】

- 事業を始める前に、補助金等に頼らない資金が確保できる
- 事業を実施する前の段階から、多くの方々に活動をPRすることができる
- プロジェクトや団体の想いに共感した支援者と、継続的な関係を築くことができる

【リスク】

- 必ずしも資金調達できるとは限らず時間がかかる
- 支援者に対する返礼品の準備や報告の連絡等の費用や手間がかかる
- 自分たちのアイデアやプロジェクトを真似される可能性がある



繋ぐ!市民活動

特定非営利活動法人市民後見たんば

地域で暮らし続けたくても、成年後見（せいねんこうけん）制度等のサポートがないためそれが叶わない人が増えています。「そこで、私たちは、市民が主体となって、成年後見制度の普及と利用の促進に取り組みます。」と語るのは、市民後見たんば理事長の足立宣孝さん。

成年後見制度とは、認知症や知的障害などで判断能力が不十分となった成年者のために、法律上の権限と責任を持つた後見人をつけて、財産管理や契約手続きなど本人が不利益を被ることなく生活を送れるように支援する制度です。後見人は、弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職が担うことが多いため、支援を必要としている人に対して対応できる人材

が少ない等の理由から十分な支援を受けられない人がいるという課題があります。

そこで市民後見たんばでは、市民が成年後見人の担い手主体となることで課題解決につなげようと、2021年11月に結成しました。市民が成年後見に必要な知識を習得し、法人として複数人で担当できる体制を計画しています。まずは、成年後見人となる人材育成のために、10月11日、13日、18日には、氷上住民センターにて養成講座を開催します。さらに、講座で学んだ人材が広く活躍できる場のマッチングにも注力するなど、「市民後見」の普及を進めていきます。



設立前フォーラムをzoomで開催



ホームページで詳しい啓発冊子を公開



活動事業者紹介

mamimumemo BOOK BOOK

本に囲まれた空間で読書と飲食を楽しめるライブラリーカフェをご存知ですか？mamimumemo BOOK BOOKは今年7月、氷上町絹山に「本と人、人と人をつなぐ場所」を目指して、自宅横の倉庫を改修し開店したライブラリーカフェです。開店に向けては、クラウドファンディングを活用し、広く協力者と改修費の一部を集めました。

店内の本棚には絵本や児童書を中心に、大人も楽しめる小説や写真集、レシピ本、コミックなどが並び、食事を楽しみながら、誰でも自由に読むことができます。キッズスペースもあり、夏休みは親子連れや近所の子どもたちで賑わいました。

数種のスパイスを丁寧に煮詰めて作るクラフトコーラ「キヌヤマコーラ」は人気商品で、クラウドファンディングの返礼品にもなりました。コーラの商品開発で得たスパイスの知識は、店内で食べられるカレーにも活かされています。

店主足立真美さんは「お客様たちが新たな企画を計画したり、ご近所さんが集まってゆつたり過ごされていて、人と人とがつながる場になっていると感じる」と話します。取材後にはご近所さんとアイシングクッキーのワークショップの打ち合わせが始まりました。今後の動向も楽しみです。



店主の足立真美さんと夫の光洋さん



お菓子づくりのワークショップ打ち合わせ



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 – 18:00(会議室は21:30まで)／毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさまのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。